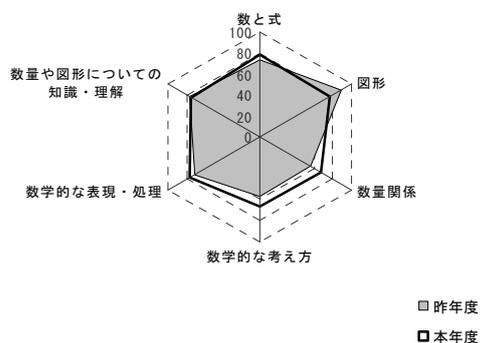


1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率 (平成19年度と18年度の状況)

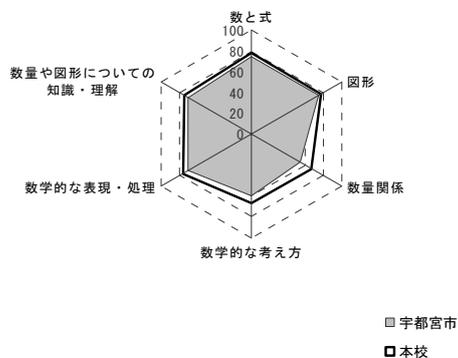


■平均正答率

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	数と式	77.7	73.3
	図形	76.5	89.0
	数量関係	66.3	54.9
観点別	数学的な考え方	66.7	56.1
	数学的な表現・処理	75.9	70.7
	数量や図形についての知識・理解	74.6	75.4

受検人数	本年度	昨年度
	83人	57人

(2) 領域別・観点別平均正答率 (宇都宮市と本校の状況)



■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	数と式	73.9	77.7
	図形	75.0	76.5
	数量関係	53.8	66.3
観点別	数学的な考え方	59.2	66.7
	数学的な表現・処理	69.9	75.9
	数量や図形についての知識・理解	69.3	74.6

受検人数	宇都宮市	本校
	4202人	83人

昨年度に比べ、領域別で、数と式・数量関係の平均正答率がアップしている。一方、図形の平均正答率は下がっている。8割を目指すことが課題となる。観点別に見ても全体的に宇都宮市よりも平均正答率が良いので、この調子で8割を目指すことが課題となる。

## 2 指導の工夫・改善

領域	平成19年度の状況	今後の指導の重点
<b>数と計算</b>	<p>・平均正答率は昨年を上回り、すべての問題で平均的な正答率が得られた。特に正の数・負の数、文字式に関する問題の平均正答率は昨年度よりも上回る結果となった。</p>	<p>・全体的に基礎的・基本的な計算力が身につけてきていることが伺えるが、80%に達していないことから、さらに計算力の向上に重点をおいた授業の展開が必要である。</p>
<b>図形</b>	<p>・平均正答率は昨年度を大きく下回ったが、宇都宮市の平均正答率は上回る結果となった。</p>	<p>・図形領域では、毎時間実物を用いて操作や実験的な授業展開を行ってきたが、さらに問題演習を行うことで、理解の定着を行っていく必要がある。</p>
<b>数量関係</b>	<p>・平均正答率は昨年度を大きく上回ったが、それでもまだ70%を下回っている。特に、比例の活用の平均正答率が低い結果となった。</p>	<p>・文字に慣れていない1年生では、ともなって変わる2つの量を文字式で表現することに困難が生じるため、段階的に丁寧な指導が必要である。また、具体的な事象の中の数量関係を読み取る問題演習に重点をおいて、さらに比例や反比例の活用能力を身につけていく必要がある。</p>